氏名	宇 野 和 昌
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 5 6 号
学位授与の日付	昭和38年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	**γ-アミノ酪酸の代謝に関する研究**
論文審査委員	教授 田中早苗　教授 水原舜爾　教授 奥村二吉

学位論文内容要旨

てんかん脳の生化学的特性として，今日γ-アミノ酪酸の代謝が注目されているが，^{14}C-γ-アミノ酪酸を使用して，それの生体内 incorporation および脳切片内での代謝を，また，てんかん脳の transamination を検索し，つぎのことを明らかにした。

1）肝および腎は γ-アミノ酪酸を急速にかつ一過性に大量取りこむが，脳へはきわめて少量しか incorporate しない。

2）^{14}C-γ-アミノ酪酸は大脳皮質切片内で一部はグルタミン酸，アスパラギン酸，グルタミンなどに転化するが，大部分は $^{14}CO_2$ となって消失する。

3）真正てんかん脳は非てんかん脳より $^{14}CO_2$ 発生の活性が低下しており，また同一てんかん脳では焦点部が非焦点部よりその活性が低下している。

4）真正てんかん脳焦点部の transaminase 活性は非焦点部および非てんかん脳に比し，活性の低下が認められる。しかし真正てんかん脳非焦点部と非てんかん脳では有意の差を認めない。

（岡山医学会雑誌：74巻　10，11，12．合併号に発表）

論文審査の結果の要旨

宇野和昌提出の「γ-アミノ酪酸の代謝に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

てんかん脳の生化学的特性として，今日γ-アミノ酪酸の代謝が注目されているが，^{14}C-γ-アミノ酪酸を使用して，それの生体内 incorporation および脳切片内での代謝を，また，てんかん脳の transamination を検索し，つぎのことを明らかにした。

1）肝および腎は γ-アミノ酪酸を急速にかつ一過性に大量取りこむが，脳へはきわめて少量しか incorporate しない。

2）^{14}C-γ-アミノ酪酸は大脳皮質切片内で一部はグルタミン酸，アスパラギン酸，グルタミンなどに転化するが，大部分は $^{14}CO_2$ となって消失する。

3）真正てんかん脳は非てんかん脳より $^{14}CO_2$ 発生の活性が低下しており，また同一てんかん脳では焦点部が非焦点部よりその活性が低下している。

4）真正てんかん脳焦点部の transaminase 活性は非焦点部および非てんかん脳に比し，活性の低下が認められる。しかし真正てんかん脳非焦点部と非てんかん脳では有意の差を認めない。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。